

令和6年2月5日  
政策経営部政策企画課

## デジタルプラットフォーム (Decidim) の検証結果について

### 1. 主旨

次期世田谷区基本計画の策定におけるデジタルプラットフォーム (Decidim) の試行導入について、検証結果を報告する。

### 2. 内容

デジタルプラットフォーム (Decidim) の検証結果について

※内容の詳細については別紙のとおり

# デジタルプラットフォーム（Decidim）の 検証結果について

---

## ■ Decidimとは

- ・Decidimとは、市民参加のためのデジタルプラットフォームであり、オンラインで多様な市民の意見を集め、議論を集約し、政策に結び付けていくための機能を有するオンラインツール。バルセロナやヘルシンキなど、世界中の30を超える自治体で利用されており、日本国内では加古川市などで導入されている。
- ・登録ユーザー同士での意見交換ができるほか、必要に応じて、出された意見に対する行政からのフィードバックを行うことが可能となる。

## ■ 日本国内における導入事例

### 広聴機能

#### ● 兵庫県加古川市など

スマートシティ構想を策定する際に、パブリックコメントの実施に先立って素案の策定段階から市民ニーズを反映させるべくDecidimを開設している。その後、施設愛称案への投票や脱炭素のまちづくりの検討などで活用している。

### 掲示板機能

#### ● 京都府与謝野町など

町民の声を町政に反映させるプラットフォームとしてDecidimの運用を開始している。具体的には、町内の府立高校と連携して卒業生による在校生への進路に関するアドバイス集の作成に取り組むとともに、各地区住民とワークショップを実施し、そこで提案された自治会のポータルサイトを作成するアイデアを実現し、現在運用している。

## ■ 世田谷区における試行導入の目的

より広範で多様な区民参加を促すために、デジタル技術を活用した新たな参加と協働の取組みとして、まずは令和6年度を初年度とする次期世田谷区基本計画策定に際し、Decidimを試行導入し、若年層を中心に幅広い年齢層の区民参加を推進する。

(1) 次期基本計画の検討における試行導入の概要

①オンライン上で区民検討会議委員と継続的な意見交換を実施。

ワークショップ	実施期間：令和4年11月28日（月）～令和5年3月31日（金）	新規登録者数 <b>6</b> 名	意見投稿数 <b>5</b> 件
	対象：区民検討会議委員のみを対象とした限定的運用 意見交換の内容：基本計画審議会での検討内容について		

②ステークホルダー意見聴取の際に、必要に応じてオンライン上での意見聴取を実施。

広聴	実施期間：令和4年12月6日（火）～令和4年12月20日（火）	新規登録者数 <b>23</b> 団体	意見投稿数 <b>23</b> 団体
	対象：ステークホルダーのみを対象とした限定的運用 意見交換の内容：次期基本計画の検討状況について		

③次期基本計画の骨子、素案がまとまった段階において、区民同士の意見交換の場として活用し意見募集を実施。

広聴	実施期間：令和5年6月1日（木）～令和5年7月7日（金）	新規登録者数 <b>85</b> 名	意見投稿数 <b>66</b> 件
	対象：全区民を対象とした運用 意見交換の内容：次期基本計画（骨子）について		

広聴	実施期間：令和5年9月15日（金）～令和5年10月6日（金）	新規登録者数 <b>4</b> 名	意見投稿数 <b>6</b> 件
	対象：全区民を対象とした運用 意見交換の内容：次期基本計画（素案）について		

運用面等の検証を行いながら段階的に対象を拡大した。



## (2) 試行導入の検証

- ハガキや区ホームページへの直接投稿などの既存の意見収集ツール以外の手法として、Decidimへの登録と投稿が一定数あった。また、無作為抽出した区民3,000名へ登録勧奨通知を発送したところ、100名程度の登録があったことから、これまで区政への参加が進んでいなかった新たな層の潜在的なニーズを見込むことができる。
- 基本計画の内容は抽象度が高く分野の幅も広いため、区民から投稿された意見も、抽象的な内容から個別具体的な事業の提案まで多岐にわたっており、区民同士の意見交換につながりにくかった。また、区民同士で意見を積み重ねていくためには、意見投稿者が継続的にプラットフォームを閲覧し、他の区民の意見を確認する必要があるが、そうした展開までは至らなかった。
- デジタルプラットフォームの機能の一つとして、行政と区民の双方向のコミュニケーションがあるが、意見を交わす対象やテーマが幅広い分野に及ぶ場合、行政内部での調整に時間がかかり迅速な回答は難しく、デジタルのメリットが発揮しづらい。



### 区民ニーズ

オンライン上の新たな区民参加手法への区民ニーズはあり、これまで区政への参加が進んでいなかった新たな層の潜在的なニーズを見込むことができる。

### 意見投稿の課題

基本計画のように意見募集の対象が幅広く、抽象度が高くなると、意見のレベル感も多岐にわたり、区民同士の意見交換につながりにくい。

### 双方向のコミュニケーション

意見を交わす対象やテーマが幅広い分野に及ぶ場合、行政内部での調整に時間がかかり迅速な回答は難しく、双方向のコミュニケーションにつながりにくい。

## <デジタルプラットフォームで意見交換を活性化するポイント>



### 意見交換を行うテーマの幅を狭めて明確にする

<今後の活用に向けた方向性>



- デジタルプラットフォームを通じた活発な区民参加を促すには、意見交換を行うテーマの幅を狭めて明確にすることが重要であり、地区・地域の課題など、身近なテーマを設定した意見交換の実施などが、機能を十分に発揮する活用方法だと考えられる。

➤ まずは、同じ地区内の住民・事業者・行政等が同じ立場で情報を発信し、共有できる仕組みを整え、デジタルプラットフォームでの情報発信・共有に慣れ、継続的に閲覧・投稿する風土を構築する必要がある。



### 区民同士の横のつながりを意識し、参加する区民の輪を広げる

<今後の活用に向けた方向性>



- オンライン上でのワークショップ機能を活用し、様々なテーマの意見募集を定期的・連続的にを行い、興味・関心が異なる区民やグループがオンライン上で頻繁に集える機会を設け、つながりを深めて参加しやすく意見を投稿しやすい環境をつくることで、区民の輪が広がり、新たな気づきやアイデアの創出などが図られ、区民参加が一層促進されると考えられる。

➤ 次期基本計画の検討で、区民検討会議委員との継続的な意見交換に活用したが、参加区民の輪を広げるにはオンライン上でのワークショップ機能としての活用は有効である。ただし、活性化した議論のためには、実際に集まって意見交換を行う機会を設けながらオンライン上でも継続して意見交換を行うなど、定期的に閲覧・投稿する土壌が必要である。

令和5年度

令和6年度以降



オンライン上での意見集約・ワークショップ機能の検証

地区・地域における情報共有の場としての活用

有効なデジタルプラットフォームの検討



STEP 0

Decidimの試行導入

Decidimを試行導入し、オンライン上での住民同士の意見交換や双方向コミュニケーションにおける課題の検証等を行った。



STEP 1

地区情報共有プラットフォームの整備

デジタルプラットフォームを活用し、地域住民・事業者・行政等が同じ立場で発信し情報を共有できる仕組みを整える。



STEP 2

STEP 0・STEP 1を踏まえ、最も有効なデジタルプラットフォームを判断

区としてどのようなデジタルプラットフォームが有効かを検討し、活用についての判断を行う。